

まだまだいるぞ！自然派ワインの新星ルーキー！郷土愛はハンパじゃない！？

リオネル・モレル (ル・マス・ダガリ)

生産地

ラングドック地方の街ベジエから北へ 20 km ほど北上した緩やかな丘の中腹にネビアン村がある。その村の外れに「ル・マス・ダガリ」、リオネル・モレルのドメーヌがある。畑の総面積 24 ha、そのうちの 4 ha をリオネルが 100%管理する。南西に面した緩やかな傾斜をもって広がるブドウ畑は、galets rous (シャトー・ヌフ・デュ・パプの土壌と同じ) と呼ばれる角のとれた楕円形の石がごろごろと点在する。夏の暑く乾燥が著しい地中海の気候によりボリュームのある力強いワインを生み出す。

歴史

現オーナーであるリオネルの家系は昔からブドウ栽培農家を続けており、彼は 4 代目にあたる。彼の曾祖父にあたる初代オーナーの時代には一時期、ドメーヌとして自社ワインを造っていたそうだが、ワイン農協が村にできたことを期に、カーヴでの仕込みを止め、以降、彼の祖父、父親の世代はブドウ栽培農家一本で生計を立ててきた。

リオネルがワインの世界に入ったのは 1998 年。最初は父親の下でブドウ作りを学び、2000 年に父親の勧めで紹介された、父の友人であり、また自然派ワインの大物でもあるディディエ・バラルの下で修行したことがきっかけで、彼は自然派ワインの世界没頭する。以降、ディディエ・バラルの紹介を受け、2001 年にはアルザスのジェラルド・シュレール、2002 年にはローヌのティエリ・アルマン、2003 年にはロワールのシャトー・ド・スロンドと名だたる作り手たちを歩きまわった。2004 年に父親の畑から 4 ha を譲り受け、ドメーヌを起ち上げるに至る。

生産者

現在、リオネルは父親の所有する 24 ha の畑の中から厳選した 4 ha を 1 人で管理している（父親はリオネルとは別に 20 ha の畑を、農協用のブドウ畑として社員と共に管理している）。彼の選んだ品種は、カリニャン、グルナツシュ、ムールヴェードル、シラーと全て赤ワイン品種で、樹齢は 10~15 年。彼の畑の約半分を占めるカリニャンに至っては 65 年の歳月が経っている。2004 年にドメーヌ「ル・マス・ダガリ」を起ち上げると同時に、50 年以上使用されていなかった曾祖父のカーヴを全面改装した。垂直圧搾機等、当時の道具で使えるものは修理して再利用し、できるだけ昔ながらのナチュラルなワインを再現できるよう努力している。

ちよつと一言、独り言

「ラングドックに住んでいるのだったら、俺の知っている良質なワインを造っているドメーヌを紹介してあげようか？ そいつはバカ真面目で仕事熱心で、誰よりもワインに情熱を持っているぞ！」

2006年の2月中旬、アルザスのドメーヌ、ジェラルール・シュレールを訪問した帰り際に、オーナーのブリュノ氏からこのように紹介を受けた。それが「ル・マス・ダガリ」— 弱冠28のリオネル・モレルが4 haの畑をたった一人で切り盛りする新星のドメーヌだ！

彼が修行で渡り歩いたワイナリーは、ジェラルール・シュレールをはじめ、ディディエ・バラル、ティエリ・アルマン、フランス・ポワレルと、どれも名だたる自然派の大物ばかり。今でも彼らとは師弟関係で、畑の仕事のノウハウから醸造、熟成樽の選び方に至るまで広範にわたってアドバイスを受けているという。彼の父親が知人であるディディエ・バラルの下で経験を積むことを強く勧めなければ、今あるワインの情熱はなかったかもしれないと言うリオネル…… 「親父はこれからの将来を見据えてか、敢えて自分のしてきた道とは全く正反対の道を俺に勧めてくれた。ビオロジック農法もそのひとつだ」彼は、息子の将来を考えた父の決断に今でも感謝している。ちなみに、彼の父親は現在でも現役で働き、農協に売るブドウ用の畑20 haを管理しているが、ビオロジックではない。

将来的に20 haある父親の畑を引継ぐのか？ という質問に対し、彼は引継がない！と断言する。「もちろん、本音では引継いでくれたら親父は喜ぶと思う。自分が畑をビオに変えることに関しては文句を言わないし。でも、個人的には、親父がどうだとかこうだとか、ビオの畑でないとかではなく、極めたいワインはラングドックのワイン、もっと言えばSALAGOUのワイン（「サラグー」とはヴァンドペイの地名）なんだ！ 残念ながら、親父から引継いだ4 ha以外の畑は、シャルドネ、メルロー、カベルネ等の外来品種ばかり。外来品種には興味がない！」彼は、同じフランスの品種であるシャルドネやメルローも、地域由来の品種でなければ外来品種と叩き斬るほどの郷土愛者だ！ワインのキュヴェの名前にオック語を使用するのも愛郷心からだ。（ドメーヌの名前である「ル・マス・ダガリ」もオック語で、畑に植えられたブドウの樹が、縦からでも横からでも斜めからでも「均等にまっすぐ」揃っているという意味だそうだ。）

ワインの修行期間を除けば、生まれも育ちもエロー県のサラグー地域。来年2007年、新たに白ワイン用の品種を1.5 haの更地に植える予定でいるが、ブドウの品種は土着の品種であるクレレット、グルナッシュ・ブラン、ルーサンヌ、マカブー、もしくはマカベオなどを検討している。「親父の所有するシャルドネとソービニヨンブランは樹齢がすでに20年を経過している。引継げばすぐに白ワインをリリースできるので、経営的には魅力的でも、自分にとってはここのシャルドネは本物のシャルドネではない！シャルドネはブルゴーニュであって、ここにはここのベストな品種がある！」

ここまで郷土心にこだわる若者に会ったことがなかったので、彼の語る郷土節はかえって新鮮だった。リオネル自身が言っていたが、彼の性格が「こう決めたらこうする！」という猪突猛進タイプなので、こだわれば何にでもはまってしまうそうだ。仕事も同じく生真面目過ぎるくらい猛烈に働くので、シュレールのブルノ曰わく「働きだしたら止まらない！本当にすごい奴だ！」と最大限の賛美をおくる。独立したばかりの現在においてすでに完成度の高いワインを作り上げる才能とセンス、ワインに対する情熱、愛郷心、全てにおいてまだまだ未知数の彼の可能性を今後も追いかけて行きたい。